

【国際学会】

Kazunari Ito, Yuriko Kihara, Kotaro Shimizu, Keita Tai, Toru Inada, Taketo Furuna: EFFECT OF VISUAL FEEDBACK WITH A MIRROR DURING STANDING IN STROKE PATIENTS. 17th Asia Confederation for Physical Therapy congress 2018, 2018. 11.

Inada T, Kanako F, Koyama S, Maruyama J, Shindo J. Does muscle output function decrease by 12 hour immobilization? 12th International Society of Physical and Rehabilitation Medicine World Congress, 8-12 July 2018, France Paris.

Kazunari Ito, Kotaro Shimizu, Toshiyuki Kikuchi, Yusuke Kondo, Yuriko Kihara, Keita Tai, Takahiro Higuchi, Taketo Furuna: Lateral margin when through aperture created by a person and a wall. The 33rd Annual Meeting of the International Society for Psychophysics, 2017.10.

Kazunari Ito, Hikaru Ihira, Keitaro Makino, Yuriko Kihara, Kotaro Shimizu, Ryo Yamaguchi, Hiroyuki Shimada, Hyuma Makizako, Taketo Furuna: A STUDY OF FACTORS ASSOCIATES WITH THE OCCURRENCE OF DEPRESSION SYMPTOMS AMONG COMMUNITY-DWELLING OLD-OLD ADULTS. 16th Asia Confederation for Physical Therapy congress 2016, 2016. 10.

Inada T, Kaneko F, Matsuda N, Koyama S, Maruyama J, Junya Shindo. Difference in the acute effect of kinesthetic illusion induced by visual stimulus and action observation on the upper-limb voluntary movement after stroke: a single-case study. The 21th Congress of the international society of Electrophysiology and Kinesiology. 5-8 July 2016, USA Chicago.

Inada T, Kaneko F, Matsuda N, Koyama S, Maruyama J. Acute effect of kinesthetic illusion induced by visual stimulation on the upper-limb voluntary movement after stroke: 2 case reports. The 20th Congress of the international society of Electrophysiology and Kinesiology. 15-18 July 2014, Italy Rome.

Inada T, Kaneko F, Hayami T. The effect of kinesthetic illusion induced by a movie on the change of muscular output function after short-term immobilization. 7th World Congress for NeuroRehabilitation 16-19 May 2012 Australia, Melbourne.

【国内学会】

伊藤一成, 木原由里子, 志水宏太郎, 田井啓太, 古名丈人: 年齢階級別に見た高齢者の就労状況と身体機能、心理機能、社会的因子との関連. 第 6 回日本地域理学療法学会学術大会. 2019.12

小野香織, 伊藤一成, 稲田亨: 地域在住脳卒中者における歩行時の苦痛に関する調査—身体機能・心理機能との関連—. 第 6 回日本地域理学療法学会学術大会. 2019.12

松田直樹, 石井賢寿, 神田千絵, 稲田亨: 回復期脳卒中片麻痺者の最大歩行能力と立位姿勢制御に対して重心動揺リアルタイムフィードバック装置が与える即時的影響の検討. 第 16 回日本神経理学療法学会学術集会. 2018.11

石井賢寿, 松田直樹, 稲田亨: 生活期脳卒中片麻痺者の快適歩行に対する重心動揺リアルタイムフィードバック装置の即時効果. リハビリテーション・ケア合同研修大会 米子, 2018.10.

伊藤一成, 木原由里子, 志水宏太郎, 田井啓太, 小野香織, 古名丈人: 地域在住高齢者における歩行時の身体的・精神的安楽性に関する調査. 第 5 回日本予防理学療法学術大会, 2018.10

伊藤一成, 野田慧史, 加藤茂敏, 冨塚文仁, 池田涼, 稲田亨: 健常者における障害物回避行動の歩行軌跡と体幹回旋角度の検討—歩行速度の違いによる検討—. 第 40 回臨床歩行分析研究会定例会, 2018.9

小川峰巨, 松田直樹, 内藤考洋, 稲田亨: 当院回復期リハ病棟の脳卒中片麻痺者における短下肢装具作製時期と歩行自立度の関連性. 第 69 回北海道理学療法士学術大会, 2018.7.

小野香織, 伊藤一成, 松田直樹, 稲田亨: 脳卒中者の歩行安楽性に関連する因子~異なる病期での検討~. 第 69 回北海道理学療法士学術大会, 2018.7.

伊藤一成, 野田慧史, 加藤茂敏, 冨塚文仁, 池田涼, 稲田亨: 歩行速度が障害物回避の歩行軌跡と体幹回旋角度に与える影響—健常者を対象とした基礎的研究—. 第 69 回北海道理学療法学術大会, 2018.7

内藤考洋, 松田直樹, 伊藤一成, 稲田亨, 小山聡, 丸山純一, 進藤順哉: 在宅脳卒中者における居住地域内歩行能力の予測因子に関する検討. 第 55 回日本リハビリテーション医学会学

術集会, 2018.6.

小野香織, 伊藤一成, 松田直樹, 小寺修平, 山栗可歩, 菅原安梨沙, 原田結衣, 稲田亨: 脳卒中片麻痺者における歩行の安楽性に関する予備研究. 第2回道北理学療法学会大会, 2018.3.

松田直樹, 石井賢寿, 神田千絵, 稲田亨, 小山聡, 丸山純一, 進藤順哉: 脳卒中者の歩行能力に対する重心動揺リアルタイムフィードバック装置の即時的効果の検討. 第55回日本リハビリテーション医学会学術集会. 2018.6

石井賢寿, 松田直樹, 稲田亨: ギランバレー症候群に対する重心動揺リアルタイムフィードバック装置を用いた即時的効果. 第2回道北理学療法学会大会, 2018.3.

小寺修平, 池田涼, 野田慧史, 稲田亨: 異なる股関節屈曲角度におけるキッキング時の下肢筋活動. 第2回道北理学療法学会大会, 2018.2

内藤孝洋, 松田直樹, 鈴木創, 伊藤一成, 加藤侑, 稲田亨: 在宅脳卒中者の地域における移動能力に応じた自己効力感の相違—屋内近隣歩行者と地域内歩行者の比較—. 第68回北海道理学療法士学会大会, 2017.11.

松田直樹, 内藤孝洋, 鈴木創, 伊藤一成, 石井賢寿, 加藤侑, 稲田亨: 在宅脳卒中者の友人および親族との社会的つながりに関連する身体機能的・心理的因子の検討. 第68回北海道理学療法士学会大会. 2017.10

大内渉, 松田直樹, 稲田亨: 脳卒中者の修正自立歩行獲得予測式の使用に高次脳機能障害を考慮すべきか? 第68回北海道理学療法学会大会, 2017.10.

松田直樹, 金子文成, 柴田恵理子, 高橋良輔, 米田将基, 稲田亨, 小山聡: 注意障害を有する重度脳卒中片麻痺者に視覚誘導性自己運動錯覚を治療として適用できるか? 第52回日本理学療法学会大会. 2017.5

松田直樹, 内藤孝洋, 鈴木創, 栗飯原里美, 伊藤一成, 加藤侑, 石井賢寿, 稲田亨: 在宅脳卒中片麻痺者における転倒関連自己効力感の低下を予測する因子の検討 ～1年間の縦断調査より～. 第52回日本理学療法学会大会. 2017.5

神田千絵, 稲田亨: Pushing症状のスクリーニングにおける正確性は経験年数で異なるか? 回復期リハビリテーション病棟協会第29回研究大会, 2017.2.

原田結衣, 菅原安梨沙, 松田直樹, 稲田亨: 在宅維持期脳卒中者の日常生活における身体活動量第一報～活動強度や連続歩行時間に着目して～. 第1回道北理学療法学会, 2017. 2.

小寺修平, 池田涼, 松田直樹, 内藤考洋, 稲田亨: 全歩行周期において膝関節屈曲位を呈した脳卒中片麻痺者の歩行時筋活動. 第1回道北理学療法学会, 2017. 2.

大内渉, 稲田亨, 松田直樹, 中村翔太, 藤田理沙, 小野香織, 米田将基, 菅原安梨沙, 原田結衣: 当院における多重ロジスティックモデルを用いた脳卒中者の自立歩行獲得予測式の有用性. 第1回北海道理学療法士学会, 2017.2.

菅原安梨沙, 原田結衣, 松田直樹, 稲田亨: 在宅維持期脳卒中者の日常生活における身体活動量 第二報 -連続歩行時間の関連因子に着目して-. 第1回道北理学療法学会, 2017.2.

内藤考洋, 松田直樹, 鈴木創, 栗飯原里美, 伊藤一成, 石井賢寿, 加藤侑, 稲田亨: 在宅脳卒中者の地域における移動能力に関連する因子の検討. 第14回日本神経理学療法学会, 2016.11.

松田直樹, 内藤孝洋, 鈴木創, 栗飯原里美, 伊藤一成, 加藤侑, 石井賢寿, 稲田亨 :在宅脳卒中片麻痺患者における脳卒中後抑うつ症に関連する因子の検討 -友人及び親族との社会的つながりに着目して. 第14回日本神経理学療法学会, 2016. 11

松田直樹, 金子文成, 稲田亨, 柴田恵理子, 小山聡, 丸山純一, 進藤順哉: 視覚誘導性自己運動錯覚が脳卒中片麻痺者の上肢運動機能回復に及ぼす影響. 第53回日本リハビリテーション医学会学会, 2016.6

内藤考洋, 松田直樹, 鈴木創, 丸谷孝史, 伊藤一成, 稲田亨: 在宅脳卒中者における生活空間に関連する因子—Life Space Assessment における活動範囲別検討—. 第51回日本理学療法学会, 2016.5.

伊藤一成, 井平光, 牧野圭太郎, 木原由里子, 志水宏太郎, 石田豊朗, 山口亨, 牧迫飛雄馬, 島田裕之, 古名丈人: 地域在住後期高齢者における身体活動量の縦断調査と関連要因の検討. 第51回日本理学療法学会, 2016. 5.

松田直樹, 金子文成, 柴田恵理子, 高橋良輔, 本澤征二, 稲田亨, 小山 聡: 視覚誘導性自己

運動錯覚が脳卒中片麻痺者の上肢運動機能回復に及ぼす影響 -ABAB シングルケースデザインによる検討- .第 51 回日本理学療法学会大会. 2016.5

栗飯原里美, 鹿島恵理, 松田直樹, 稲田亨: 当院における 65 歳未満在宅脳卒中片麻痺者の生活空間に関連する要因の検討. 第 51 回日本理学療法学会大会, 2016. 5.

鹿島恵理, 栗飯原里美, 松田直樹, 稲田亨: 在宅維持期脳卒中者における modified Gait Efficacy Scale と modified Fall Efficacy Scale に関連する因子の検討. 第 51 回日本理学療法学会大会, 2016. 5.

神田千絵, 稲田亨, 櫻木均: 回復期脳卒中片麻痺患者へのベルト電極式骨格筋電気刺激法の使用経験. 回復期リハビリテーション病棟協会第27回研究大会, 2016.3.

稲田亨, 神田千絵, 本澤征二, 中濱恒彦, 幅寺慎也: 当院におけるセラピストの質向上を目指した人材育成. 回復期リハビリテーション病棟協会第 27 回研究大会, 2016.3.

小寺修平, 池田涼, 松田直樹, 稲田亨: 片脚立位時での股関節回旋肢位の違いによる股関節周囲筋群の筋電図学的検討. 第 66 回北海道理学療法士学会, 2015.11.

内藤考洋, 松田直樹, 鈴木創, 丸谷孝史, 稲田亨, 酒井安弘, 佐田真吾, 木村俊哉, 塚田鉄平, 高山拓也, 片野真奈未, 大石智也: 旭川市及びその近郊における在宅脳卒中者を対象とした生活空間の調査—現状と関連する因子の検討—. 第 66 回北海道理学療法士学会, 2015.11.

石井賢寿, 本澤征二, 稲田亨: 当院回復期リハビリテーション病棟における朝のミーティング導入による FIM の変化. 第 66 回北海道理学療法士学会大会, 2015.11.

松田直樹, 金子文成, 柴田恵理子, 高橋良輔, 本澤征二, 稲田亨: 視覚誘導性自己運動錯覚が脳卒中片麻痺者の上肢運動機能回復に及ぼす影響 -ABA シングルケースデザインによる検討. 第 2 回日本基礎理学療法学会学術集会/日本基礎理学療法学会 第 20 回学術大会, 2015.11

池田涼, 松田直樹, 小寺修平, 高橋良輔, 稲田亨: 大殿筋・中殿筋における筋力訓練時と歩行時の筋活動比較. 第 66 回北海道理学療法士学会大会, 2015. 11.

伊藤一成, 稲田亨: 維持期脳出血片麻痺患者 1 例に対するエルゴメータ駆動の即時的及び長

期的効果—歩行能力の経時的変化に着目して—。第 66 回北海道理学療法学会, 2015. 11.

米田将基, 金子文成, 稲田亨, 松田直樹, 高橋良輔, 野里裕基: 急性期脳卒中片麻痺者の上肢運動麻痺に対して視覚誘導性自己運動錯覚の誘起が効果を示した症例。第 66 回北海道理学療法学会, 2015.11.

鈴木創, 伊藤一成, 松田直樹, 稲田亨: 麻痺側立脚期に膝関節が過伸展する脳卒中片麻痺者の歩行に関する一考察。第 66 回北海道理学療法学会, 2015.11.

鹿島恵理, 栗飯原里美, 松田直樹, 稲田亨: 維持期脳卒中患者における Modified Gait Efficacy Scale の妥当性の検討。第 66 回北海道理学療法学会, 2015.11.

石井賢寿, 本澤征二, 稲田亨: 当院回復期リハビリテーション病棟における朝のミーティング導入による FIM の変化。第 66 回北海道理学療法学会, 2015. 11.

小寺修平, 松田直樹, 池田涼, 稲田亨: 片脚立位時の股関節回旋肢位の違いによる股関節周囲筋群の筋電図学的検討。第 66 回北海道理学療法学会, 2015.11.

神田千絵, 稲田亨, 網本和: Contraversive Pushing に対する主観的評価の正確性。第 50 回日本理学療法学会, 2015. 6.

松田直樹, 森大河, 山田耕平, 稲田亨, 小塚直樹: 在宅脳卒中片麻痺患者における質問紙による身体活動量評価方法の検討 ～Life Space Assessment と International Physical Activity Questionnaire の比較～。第 50 回日本理学療法学会, 2015.6

稲田亨, 金子文成, 松田直樹, 柴田恵理子, 小山聡: 右中大脳動脈および前大脳動脈領域の脳梗塞片麻痺者における脳損傷部位と運動錯覚。第 50 回日本理学療法学会, 2015. 6.

稲田亨, 金子文成, 松田直樹, 小山聡, 丸山純一, 進藤順哉: 脳卒中片麻痺者の上肢運動障害に対する視覚誘導性自己運動錯覚介入により急性効果を示した症例。第 52 回日本リハビリテーション医学会学会, 2015.5.

松田直樹, 森大河, 山田耕平, 稲田亨, 小塚直樹: 在宅脳卒中片麻痺患者における International Physical Activity Questionnaire 日本語版の妥当性の検討。第 11 回日本神経理学療法学会, 2014.12

小川峰巨, 矢尾尚之, 稲田亨, 阿部和利, 丸山純一, 進藤順哉: 著明な ADL の改善を認め、透析を離脱し独歩退院をなし得た一例. 第 59 回 日本透析医学会学術集会・総会, 2014.6.

松田直樹, 金子文成, 稲田亨, 柴田恵理子, 小山聡: 慢性期脳卒中片麻痺患者に対する運動錯覚と運動イメージを組み合わせた治療的介入の急性効果. 第 49 回日本理学療法学会学術大会, 2014.5

伊藤一成, 稲田亨: 当院通院中の維持期脳卒中片麻痺患者の応用歩行予備能の検討—Timed up and go test を用いて—. 第 64 回北海道理学療法学会学術大会, 2013. 11.

加藤侑, 稲田亨, 小山聡: 多発性筋炎により重度筋力低下を呈した症例に対する理学療法. 第 64 回北海道理学療法士学術大会, 2013.11.

松田直樹, 金子文成, 稲田亨, 柴田恵理子, 小山聡: 発症後 10 年を経過した脳卒中片麻痺症例に対する運動錯覚を用いた治療の急性効果 —視覚刺激と運動イメージを併用した治療について—. 第 3 回日本基礎理学療法学会.2013.10

稲田亨, 金子文成, 松田直樹, 岡和田愛実, 柴田恵理子, 小山聡: 脳卒中片麻痺者の上肢運動障害に対する視覚入力を用いた運動錯覚介入により即時的効果を示した症例. 第 48 回日本理学療法学会学術大会 2013.5.

小川峰巨, 稲田亨, 堀合健太, 奥村優子, 本間亜由美: 当院における車椅子の保守管理体制構築前後の変化について. 回復期リハビリテーション病棟協会第 21 回研究大会 in 金沢, 2013.3.

小川峰巨, 稲田亨, 堀合健太, 奥村優子: 当院の車椅子保守管理体制の構築に向けて. 第 63 回北海道理学療法士学術大会, 2012.11.

冨塚文仁, 横山弘明, 横井裕一郎, 櫻田周, 稲田亨: 脳卒中片麻痺患者の側方への Functional Reach Test を用いた安定性限界の認識誤差. 第 63 回北海道理学療法学会学術大会, 2012.11.

中山昌樹, 稲田亨, 西村由香: 立ち上がり動作中の荷重比と利き足・非利き足の関係について. リハビリテーションケア合同研究大会, 2012. 10.

鹿島恵理, 山川花菜子, 宮本重範, 稲田亨: 下腿三頭筋のストレッチ後の足関節背屈可

動域と能動的重心移動の関連性. リハビリテーションケア合同研究大会, 2012. 10.

稲田亨: 脳卒中患者の早期退院に向けて.-脳卒中パス早期コース導入実績-.第 4 回旭川脳卒中地域連携研究会, 2012. 6.

稲田亨: 理学療法とクオリティ・マネジメント『臨床の立場から』. 第 21 回北海道理学療法士会全道学術研修大会, 2012.4.

山田耕平, 稲田亨, 高橋浩史: 当院における維持期脳卒中患者の転倒と運動予測の関連性-空間的・時間的運動予測に着目して-.第 62 回北海道理学療法士学術大会,2011.11.

丸谷孝史, 稲田亨, 高橋浩史, 堀合健太, 高宮真由美, 伊藤麻美: 感覚条件の違いが重心動揺のカオス性に及ぼす影響. 第 62 回北海道理学療法士学術大会, 2011. 11.

稲田亨: 脳卒中患者の早期退院に向けて.-脳卒中パス早期コースを導入して-.第 3 回旭川脳卒中地域連携研究会, 2011. 7.

稲田亨, 金子文成, 速水達也: 動画を用いた視覚的運動錯覚介入は短期間の関節固定による筋出力低下を予防する -パフォーマンスと運動単位活動動態からの解析-.第 46 回日本理学療法学術大会,2011. 5. 27~29.

内藤考洋, 塚田鉄平, 佐々木敬, 齋藤大地: Mowat-Wilson 症候群児に対する理学療法経験の報告. 第 60 回北海道理学療法士学術大会, 2009.11.

堀部憲, 山田耕平, 鈴木創, 内藤考洋, 塚田鉄平, 春名弘一 :脳卒中片麻痺者の転倒恐怖感と歩行持久性, 拡大 ADL の関連性. 第 60 回北海道理学療法士学術大会, 2009.11

春名弘一, 伊藤麻美, 鈴木創, 須田互, 塚田鉄平, 稲田亨, 田中敏明, 杉原俊一, 白銀暁, 大山陽平, 前田祐輔, 泉隆, 武田秀勝: 脳血管障害患者に対する振動刺激付きバランス機器による評価トレーニング方法の検討 第二報. 第 43 回日本理学療法学術大会, 2008.5.

春名弘一, 伊藤麻美, 須田互, 山崎貴央, 塚田鉄平, 稲田亨, 田中敏明, 杉原俊一, 白銀暁, 大山陽平, 前田祐輔, 泉隆, 武田秀勝: 脳血管障害患者に対する振動刺激付きバランス機器による評価トレーニング方法の検討. 第 42 回日本理学療法学術大会 2007.5

塚田鉄平, 小島由紀, 高橋浩史, 佐々木健史: ホリゾンタルレッグプレス運動の筋電図学的

検討. 第 55 回北海道理学療法士学会, 2004.10

渡辺暁子, 鈴木健太, 中嶋光秀, 高橋浩史, 佐々木健史: 足指へのストレッチングが前方へのバランスと足底への 2 点識別覚に及ぼす影響について. 第 55 回北海道理学療法士学会, 2004.10

山崎貴央, 海野真紀夫, 中嶋光秀, 佐々木健史: 脳卒中片麻痺患者における乗馬シミュレーターの効果について. 第 55 回北海道理学療法士学会, 2004.10

金森百江, 坂本さくら, 佐々木健史, 稲田亨, 高橋浩史, 神田千絵, 佐野とも子, 中嶋光秀, 金光末子: 北海道における女性理学療法士の結婚・出産に関する意識調査. 第 53 回北海道理学療法士学会, 2001. 11.

神田 千絵: 車いす回転運動の検討—片手片脚駆動と両手駆動の比較—. 第52回北海道理学療法学会, 2001.

佐々木健史, 金光末子, 高橋浩史, 神田千絵, 坂本さくら, 佐野とも子, 塚田鉄平, 中嶋光秀: 脳卒中片麻痺患者の着座動作に関する基礎的研究. 第 51 回北海道理学療法士学会, 2000.

高橋浩史, 芳澤昭仁, 金光末子, 稲田亨, 佐々木健史, 神田千絵: 家庭用ヘルスマーター型体脂肪計の有用性について. 第 48 回北海道理学療法士学会, 1997.

佐々木健史, 芳澤昭仁, 高橋浩史, 稲田亨, 金光末子, 神田千絵: 健常人における立位側方体重移動量に与える測定感覚の影響. 第 47 回北海道理学療法士学会, 1996.

高橋浩史, 芳澤昭仁, 佐々木健史, 稲田亨, 金光末子, 神田千絵: 健常人の椅子からの立ち上がりにおける荷重量の検討. 第 47 回北海道理学療法士学会, 1996.

稲田亨, 芳澤昭仁, 吉田幸史, 佐々木健史, 高橋浩史, 庄内しのぶ: 健常者における膝関節位置覚の加齢による影響—他動運動の誤差認知による定量的評価—. 第 46 回北海道理学療法士学会. 1995. 11.

【論文】

Inada T, Kaneko F, Hayami T. Effect of kinesthetic illusion induced by visual stimulation on muscular output function after short-term immobilization. Journal of

Electromyography and Kinesiology 27(2016), 66-72

Kaneko F, Inada T, Matsuda N, Shibata E, Koyama S. Acute Effect of Visually Induced Kinesthetic Illusion in Patients with Stroke. A Preliminary Report. International Journal of Neurorehabilitation. 2016, (3), 212.

内藤考洋, 塚田鉄平, 佐々木敬, 齋藤大地: 在宅脳卒中者の生活地域における歩行能力に関連する因子—運動機能, 心理, 社会的側面からの検討—. 北海道理学療法, 2018, (35), 4-10.
※北海道理学療法学会奨励賞受賞

内藤考洋, 松田直樹, 鈴木創, 丸谷孝史, 酒井安弘, 佐田真吾, 塚田鉄平, 木村俊哉, 高山拓也, 片野真奈未, 稲田亨: 在宅脳卒中者における生活空間の関連因子—活動範囲別の検討—. 理学療法学, 2017, 44(5), 323-331.

神田千絵, 稲田亨, 内藤考洋, 早坂梨紗, 網本和: 半側空間無視の臨床特性と基本的理学療法. 理学療法ジャーナル 51(10), 845-854, 2017.10.

金子 文成, 柴田恵理子, 稲田亨, 松田直樹, 小山聡: 四肢の視覚誘導性自己運動錯覚に係る生理学的機序とリハビリテーションへの応用. バイオメカニズム, 2016, (23-9).

栗飯原 里美, 鹿島 恵理, 松田 直樹, 稲田 亨: 65歳未満と65歳以上の維持期在宅脳卒中患者における生活空間に関連する要因. 北海道理学療法, 2016, (33). 4-8. ※北海道理学療法学会奨励賞受賞

鹿島恵理, 栗飯原里美, 松田直樹, 稲田亨: 維持期脳卒中患者における Modified Gait Efficacy Scale の妥当性の検討. 北海道理学療法, 2016, (33). 9-14.

池田涼, 松田直樹, 小寺修平, 高橋良輔, 稲田亨: 歩行時と自重運動時における筋活動量の比較 -大殿筋と中殿筋に着目して-. 北海道理学療法, 2016, (33). 40-43.

松田直樹, 森大河, 山田耕平, 稲田亨, 小塚直樹: 在宅脳卒中片麻痺患者における国際標準化身体活動質問紙の基準関連妥当性の検討. 北海道理学療法, 2015, (32), 4-8.
※北海道理学療法学会奨励賞受賞

富塚文仁, 横山弘明, 横井裕一郎, 櫻田周, 稲田亨: 脳卒中片麻痺患者における側方への安定性限界の認識誤差について. 北海道理学療法, 2013, (30), 39-42.

丸谷孝史, 稲田亨: 感覚情報の違いが重心動揺のカオス性に及ぼす影響. 北海道理学療法, 2012 (29) *北海道理学療法学会奨励賞受賞

海野真紀夫, 熊谷義和, 中嶋光秀, 稲田亨: 当院における透析患者へのリハビリテーション. 北海道理学療法, 2011 (28)

内藤考洋, 塚田鉄平, 佐々木敬, 齋藤大地: Mowat-Wilson 症候群児に対する理学療法経験. 北海道理学療法, 2010, (27), 76-81.

堀部憲, 山田耕平, 鈴木創, 内藤考洋, 塚田鉄平, 春名弘一: 脳卒中片麻痺者の転倒恐怖感と歩行持久性, 拡大 ADL の関連性. 北海道理学療法, 2010, (27), 57-62

神田千絵, 金光末子, 佐々木健史, 朝野裕一: 車椅子回転運動の検討ー片手片脚駆動と両手駆動の比較ー. 北海道理学療法, 2002, (19), 57-60.

【シンポジウム等】

内藤考洋: 当院（札幌市外）で進める脳卒中者の歩行再建と装具療法, 現状と課題. 第 16 回日本神経理学療法学会サテライトカンファレンス. 2019.10

稲田亨: 脳卒中 - 予防・治療・リハビリ -. 脳卒中のリハビリテーション「急性期から在宅の生活期まで. 第 15 回旭川市医師会女性医師部会 市民講演会. 2016.6.24

稲田亨: 理学療法とクオリティ・マネジメント. シンポジウム『臨床の立場から』. 第 21 回北海道理学療法士会 全道学術研修大会 2012.4.21